

「碍」の字表記問題再考 (19) 仏教にみる障害者像

推古天皇は594年(推古天皇2)に「三法興隆の詔」を発令し、国家として初めて仏教を公認、摂政の厩戸王は「十七条憲法」の中で仏教の重要性を説いた。その背景には、各地で頻繁に発生する飢饉や蔓延する疫病など、それらの救済を願う一心でわが国に伝来した仏教の力にひたすらすがるとともに、争いの絶えない人々の心を治め、鎮護国家を構築することに力を注いだ。

神仏習合

仏教の伝来はわが国にとって国を揺るがす一大事であり、衝撃的なものであったようである。『日本書紀』によれば、第29代欽明天皇時代、わが国は朝鮮半島の高麗、百濟、新羅、任那との政治事情の軋轢や、加えてわが国の内乱で不安定な激動の時代であったことが記されている。

そんな時流の中、552年(欽明天皇13)に百濟の聖明王がわが国に対して使節を遣わし、「釈迦仏金銅像」と「幡蓋」「經論」を献じたことと記録されている。聖明王は、仏を篤く礼拝することにより功德を得ることができる「福德果報」を説いたとされ、これが仏教受容の契機となったようである。仏教の伝来は552年説が『日本書紀』には記されているが、747年(天平19)の『元興寺伽藍縁起并流記資材帳』には538年(宣化天皇3)に仏教が伝来したと記されている。また、917年(延喜17)頃に法隆寺の僧侶によって撰述された厩戸王の伝記資料である『上宮聖徳法王帝説』では仏教伝来は戊午の552年ではなく、壬申の538年と記されており、現在ではこの538年が仏教公伝の定説となっている。

『日本書紀』には、さらに当時の模様が詳しく記されている。欽明天皇は百濟の使者に対して受容するかどうかは自分一人では決断せず、臣下と相談の上で決めると答えている。

欽明天皇は祀るべきかどうかを側近に問い、その結果、渡来人と交流が深い蘇我稲目に仏像を授け、飛鳥小墾田の蘇我稲目の家に安置させた。この仏像は「蕃神」として祀られ、古来のわが国の神道の神と区別するとともに、同質の神として扱った。これがわが国の「神仏習合」である。しかし、585年(敏達天皇14)に天然痘が大流行し、敏達天皇自身も罹患し、崩御している。その原因は在来の神の怒りによるものとして受け止められ、豪族たちの反感、反発を招いたのである。それにより、神祇祭祀と深い関わりがあり、反仏派であった物部守屋と中臣勝海などは疫病の流行は仏像のせいと決めつけ、物部守屋はその仏像と仏像を祀る蘇我稲目の家を焼き払っている。さらに、わが国初の尼僧となった善信尼を禁固して鞭打ちの刑に処したことが書かれている。

仏教の受容は容易ではなかったことは史実により明らかである。その後、数十年にわたる反仏派と崇仏派の争いの果てに仏教は受容され、国家仏教として崇められるようになっていくのである。それを物語るものとして、660年(斉明天皇6)の5月に天皇の勅命によって催された「法会」で読まれた『仁王般若波羅蜜經』に次のような記述がある。

有司奉勅、造一百高座、一百納袈裟、設仁王般若之会(田村圓澄・川岸宏教編：1985年、52頁)

この文言が意味することは、「国の内乱をはじめとする諸事の困難に対して、百の仏像、百の菩薩像、百の羅漢像、百の比丘像などを安置し、百の法師を請うて朝夕の二時、この經典を講読するならば、国土の百部の鬼神、また各部ごとの百部の鬼神が、この經典の講読を聞くことを樂い、国土を守護するであろう。火難、水難、風難など一切の諸難があれば、ただちにこの經典を講読せよ」と、ひたすら經典を唱えることを説いている。

三經義疏

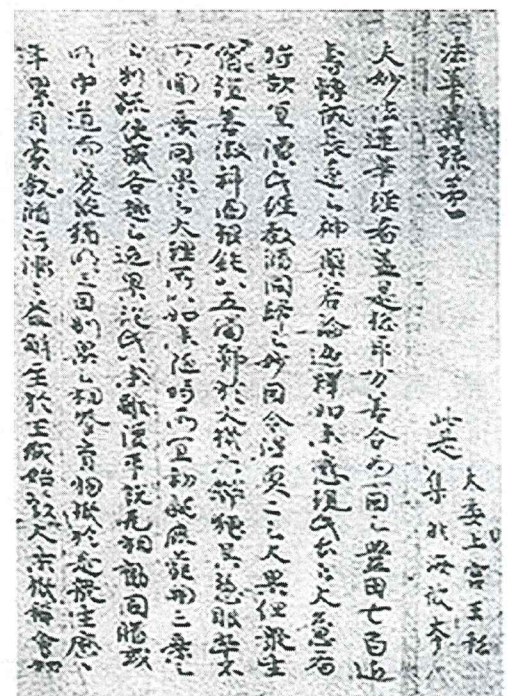
仏教の歴史を遡る中で日本史の教科書にも掲載され、有名な史実の一つに厩戸王が著したといわれる『三經義疏』がある。611年(推古天皇19)に『勝鬘經義疏』1巻、613年に『維摩經義疏』3巻、615年に『法華經義疏』4巻の仏教經典の解説書を撰述している。これらを総称して『三經義疏』と呼んでいる。日本仏教にとって重要な經典の注釈書である。

『日本書紀』には、仏教の興隆により高句麗、百濟より多くの僧がわが国に渡来し、それに伴い仏教文化が押し寄せてきたと記されている。仏の教えを受容しただけにとどまらず、仏教芸術、建築、生活様式、政治、思想などさまざまな外来文化を受け入れたのである。

わが国は朝鮮半島より仏教が伝播しているが、高句麗、新羅は当時、中国南北朝、随、唐時代の仏教の影響を強く受けている。厩戸王が特に高句麗の僧慧慈から、「勝鬘經」、「維摩經」、「法華經」について師事を受けたことが『三經義疏』の撰述に深く影響しているのである。

【参考文献】

- 家永三郎教授東京教育大学退官記念論集刊行委員会『古代中世の社会と思想』三省堂、1979年。
- 高取正男ほか『古代日本と仏教の伝来』雄山閣出版、1981年。
- 田村圓澄・川岸宏教編「聖徳太子と飛鳥仏教」『日本仏教宗論集』第1巻、吉川弘文館、1985年。
- 宇治谷孟『全現代語訳日本書紀』(上)(下)、講談社学術文庫、1988年。



『法華義疏』Wikipediaより